

## 1 青森県小学校長会

<p>第4次食育推進計画への位置付け</p>	<p>基本方向1-2、配慮すべき事項2</p>
<p>活動内容・参加者等</p>	<p>青森県小学校長会として実施している事業はないが、各地区（県内9地区）及び各小学校において次のような取組を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校における「食育に関する全体計画」を作成し、実施・改善に努めている。</li> <li>2 各教科、総合的な学習の時間、特別活動及び給食指導の時間等、教育活動全体を通して食育の推進に努めている。</li> <li>3 食育に関する専門的な知識をもつ栄養教諭、学校栄養職員、調理員、生産者等をゲストティーチャーとして授業を実施し、食の指導に生かしている。</li> <li>4 学校保健委員会において食に関する指導内容を扱い、教職員、保護者、地域の方々と共に、食について話し合う機会を設けている。</li> <li>5 食育イベントを開催し、栄養教諭や学校栄養職員が給食の紹介や食に関するクイズやゲームを実施している。</li> </ol>
<p>取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全小学校において、栄養教諭を活用した授業を実施している地区がある。</li> <li>2 PTAが中心となり、栄養教諭や学校栄養職員をゲストティーチャーに迎え、保護者向けの研修会を実施している地区がある。（講話、給食試食会、調理実習等）</li> <li>3 参観日を活用して、栄養教諭、学校栄養職員をゲストティーチャーに迎え、食に関する講演を実施した地区がある。</li> <li>4 多くの学校で学校保健委員会や授業、クラブ活動等で学校栄養職員を効果的に活用している地区がある。</li> </ol>

## 2 青森県中学校長会

事業名 ①	日常の学習活動における食育への取組（各校独自の取組）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、配慮すべき事項2
期 日	通年
場 所	学校内
活動内容・参加者等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「食に関する指導全体計画」の作成、それに基づく年間を通じた指導と振り返り、工夫・改善に努めている。</li> <li>2 保健体育科や家庭科の授業で食と健康等、食育に関する内容を展開し、学習のねらいを達成できるように努めている。</li> <li>3 生徒会の保健委員会の活動に健康と食を関連させたテーマを組み入れ、全校集会等で発表することで、全校生徒に考える機会を持たせるなど工夫している。</li> <li>4 学校給食をとおして、食の大切さを学ばせている。（給食センターからの配付物や昼の放送原稿として活用する）</li> <li>5 食物アレルギーについての教職員対象の校内研修会の実施。</li> <li>6 学校保健委員会で「食」をテーマにし、健康な体づくりやフードロスについて生徒と保護者、教職員が共に考える場面づくり。</li> </ol>
事業名 ②	学校外での食育の意識化を目指した取組（各校独自の取組）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1
期 日	通年
場 所	家庭・地域
活動内容・参加者等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 PTAが独自に企画運営し、給食試食会や調理実習、栄養教諭を講師に招いての食育研修会などを実施。</li> <li>2 手作りお弁当の日を設け、生徒が自分の手で弁当を作り、食と健康、栄養について考えさせる機会をもつ。</li> <li>3 大学と連携し、食と健康に関する生徒アンケートの結果から浮かび上がる生活習慣の乱れや健康を害する食生活の実態を明らかにし、生徒はもとより保護者や地域に結果と考察を還元することで、意識化と家庭での改善につなげてもらうきっかけづくりをしている。</li> </ol>

### 3 青森県高等学校長協会

取組 ①	高等学校の学習活動における食育の取組（各教科等における取組）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、2-2、3-2、3-3
活動内容・参加者等	<p>1 高等学校の学習活動における食育の取組</p> <p>(1) 各教科等における取組</p> <p>ア 共通教科「家庭基礎」、「家庭総合」に関する学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各ライフステージの栄養的な特徴の理解と調理実習による技術の習得</li> <li>・自分自身の食事内容を振り返り、望ましい食生活を考えさせる学習</li> <li>・市販の弁当等から食材の原産地やフードマイレージを考えさせる学習</li> </ul> <p>イ 家庭科関係の専門学科における教科「フードデザイン」、「食文化」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の意義と役割の理解、健康な食生活に関する学習</li> <li>・実習を踏まえた食品の特徴、調理上の性質、成分変化等に関する学習</li> <li>・食育基本法を踏まえた食事の重要性についての理解</li> <li>・伝統的な行事に伴う料理や食材等に関する由来や意味の理解</li> <li>・行事食や郷土料理に関する学習と調理技術の習得</li> <li>・食文化の伝承の重要性や新しい食文化の創造に関する学習</li> </ul> <p>ウ 課題研究、「総合的な学習（探究）の時間」、「介護基礎と福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の栄養学を踏まえた調理法の実習</li> <li>・味噌汁や発酵食品の効能</li> <li>・病気と食、望ましい生活習慣と食、健康寿命を延ばすための食生活</li> </ul> <p>エ 保健体育（保健）（健康を支える環境づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品と健康（食品の安全性の確保、食品衛生活動）</li> <li>・健康に関する環境づくりと社会参加（ヘルスプロモーション、適切な健康情報の活用）</li> </ul>
取組 ②	青森県高等学校長協会（家庭部会）における取組（講演・発表等）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	令和5年11月9日
場 所	青森県総合社会教育センター（第1研修室）
活動内容・参加者等	<p>令和5年度青森県高等学校長協会家庭部会秋季研究協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季研究協議会において食に関する講演会の実施。</li> </ul> <p>（株）フードコミュニケーション代表取締役なぎさなおこ氏を迎え、講演会を実施。</p> <p>演題：「あなたの美味しい人生のレシピの作り方 ～あなたの、家庭の、学校の美味しいレシピ作り～」</p>

取組 ③	各学校における特色ある取組事例
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
活動内容・参加者等	<p>1 百石高校 食物調理科（専門学科）</p> <p>(1) 中学生の1日体験入学での模擬授業（3年3名）        課題研究での栄養班3名が、各自のテーマのもと調査研究しまとめた内容をポスターやスライドを使って中学生に発表した。</p> <p>(2) 給食通信の作成、掲示（3年）        総合調理実習では、毎回「給食通信」も作成、1～2年食物調理科に配布。食について発信している。また、普通科での給食体験（各学年1回）を実施。その際も「給食通信」を配布し、食について発信するとともに、体験時には食事のマナーなどを指導している。</p> <p>(3) 食育教室（1年全員）        おいらせ町内の保育園へ、1年生による食育教室を実施。        ※2年生による食育教室は3学期に町内の小中学校で実施予定。</p> <p>(4) 食に関するポスター作成、食育月間（6月）に校内掲示。        2年生の専門科目「栄養」で作成。        テーマ「高校生に知ってほしい食に関する知識」</p> <p>(5) おやこ食堂へのボランティア参加（3年生有志）        年2回。町内で開催されたおやこ食堂に参加。サービスや食事作りを行った。</p> <p>2 弘前実業高校（家庭科学科）（専門学科）        以下の科目で食育に取り組んでいます。</p> <p>科目名「介護基礎と福祉」「課題研究（介護）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学と咀嚼能力を踏まえた高齢者の食について（調理法の工夫）</li> <li>・睡眠と食生活、病気と食習慣、健康寿命を延ばす食生活について</li> <li>・味噌汁や発酵食品の効能</li> </ul> <p>科目名「フードデザイン」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の意義と役割の理解、健康な食生活に関する学習</li> <li>・実習を踏まえた食品の特徴、調理上の性質、成分変化等に関する学習</li> <li>・食育基本法を踏まえた食事の重要性についての理解</li> </ul> <p>科目名「食文化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な行事に伴う料理や食材等に関する由来や意味の理解</li> <li>・行事食や郷土料理に関する学習と調理技術の習得</li> <li>・食文化の伝承の重要性や新しい食文化の創造に関する学習</li> <li>・外部講師を招いての「食品ロス」「食育」に関する講話</li> </ul>

### 3 青森高校（普通科）

科目名「家庭基礎」：学校家庭クラブ活動（1年生全員）

- ・本校生徒はほとんどの生徒が進学し、親元を離れるが、課題として「生活スキル」の不足があると考え、食育に7年前から取り組んでいる。
- ・学校家庭クラブ活動として取り組んでいる「青高自炊塾」は、ホームプロジェクトと関連づけ食に関心を持たせるために、1時間調理実習を年間14回程度実施し、年3回のホームプロジェクトに繋げ、生徒の自炊力を高めることを目指している。保護者からは、将来の自炊に役立つと好評である。
- ・青森県農林水産部食の安全推進課が令和元年から実施している「高校生のための自炊塾」のモデルになり、令和元年、5年に青森高校でも実施している。
- ・本校独自の「青高自炊塾レシピブック」に、青森県農林水産部食の安全推進課作成の「コンビニベジうまめし」3年分を加えている。他に、消費者センター「お悩み相談室」、宅建協会「一人暮らしガイドブック」を加え将来の自立に備え、生活スキルの向上を目指している。
- ・今年度、「青高自炊塾」の活動を青東地区協議会研修委員研修会で発表し東青地区の保護者に好評であった。
- ・青森県の食育サポーターとして、五所川原高校定時制のPTA研修会で「青高自炊塾」のレシピを紹介し、生徒、保護者の方々に喜ばれた。
- ・青森県農林水産部食の安全推進課作成の「広めよう！自炊力」に「青高自炊塾」の活動が独自の取組事例紹介として掲載された。
- ・全国高等学校長協会家庭部会普通教育に関する調査研究委員会が発行する来年度の冊子に「青高自炊塾」の実践が掲載される。青森県農林水産部食の安全推進課が令和元年度から主催している「高校生のための自炊塾」は青森県独自の取組として全国に発信したい。

イ 子ども食堂を利用する子どもや保護者を対象に、田植えや稲刈り、りんご収穫体験を実施し、最終的に食する機会を設けた。これにより栽培活動の楽しみや苦勞を共有し、地域で育まれる農業文化と食に対しての理解を深めた。

なお、これらの活動は青森県農林水産部食の安全・安心推進課、弘前大学大学院教育学研究科、青森県社会福祉協議会、地域企業、地域団体の協力を得て実施した。

### 3 五所川原農林高校 生物生産科（専門学科）

#### (1) 農業高校フードバンク

科目：課題研究（農業科・生物生産科）

生物生産科6次産業研究室では、栽培実習でどうしても発生してしまう「農産物ロス」と「子どもの体験機会ロス」という社会問題の解決に向け、3年前から西北五地域の子ども食堂と連携して以下の活動に取り組んだ。

ア 廃棄予定だがおいしく食べられるリンゴ等を仕分けて保管し、共食活動の材料として子ども食堂に届け、活用してもらった。その際は運営ボランティアとしても参画し、実際に子ども食堂利用者と食をテーマにふれあう機会を作った。（毎月1回）

#### (2) 地元小学生との稲作栽培交流の実践

科目：作物、グリーンライフ、地域資源活用（農業科・生物生産科）

本活動は、生物生産科2・3年生が五所川原市立いずみ小学校の児童の先生役を果たし、春の田植え、夏の生育調査、秋の収穫の栽培体験交流をとおして知識や技術を伝える。児童たちは総合学習で西北地域の基幹産業である稲作を学んでおり、高校生は児童の様々な質問に応答する。高校生は普段の学習内容を発揮できることから皆いきいきと活動に取り組む姿を見せる。

#### (3) 地元子ども園児の食育交流の実践

科目：野菜、グリーンライフ、地域資源活用（農業科・生物生産科）、食品製造（農業科・食品科学科）

本活動は、青森県農林水産部食の安全・安心推進課と連携した活動である。生物生産科2年生がこども園園児の先生役を果たし、地域の伝統野菜「毛豆」の播種、収穫の栽培体験交流を行い、味や香りを味わう機会を設けている。また、食品科学科2年生が、同じくこども園園児の先生役としてダイズから豆腐の製造を指導し、共食する機会を設けている。

## 4 青森県特別支援学校校長会

<p>第4次食育推進計画への位置付け</p>	<p>基本方向1-1、1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、3-3、配慮すべき事項2</p>	
<p>取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)</p>	<p>授業について</p>	<p>【幼児児童生徒を対象とした栄養教諭・栄養士や教員による授業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の大切さ、バランスの良い食事、食事マナー等、学校給食のねらいに関する学習</li> <li>・栄養教諭及び栄養士による食育の話</li> <li>・季節の食材や県産品を使った調理学習</li> <li>・給食の献立を取り上げた食材や料理（種類）に関する学習</li> <li>・学校菜園での野菜の栽培、収穫、調理、販売学習</li> <li>・給食を食べるまで（配送から配膳まで）の過程についての学習</li> <li>・SDGsに関連させた食育についての学習</li> <li>・弁当作り</li> <li>・米づくり、バケツ稲づくり</li> <li>・栄養教諭や栄養士、厨房の方への感謝メッセージ作成</li> <li>・食中毒を含めた食に関する知識</li> <li>・摂食指導を通した安全な食べ方の指導</li> <li>・非常食に関する講話及び非常食給食の実施</li> <li>・朝食の重要性、水分補給、スーパー・コンビニでの昼食の選び方等の学習</li> <li>・給食の盛り付け方とカロリー計算</li> <li>・エシカル消費、食品ロス削減についての学習</li> <li>・日本の伝統的な食事、地域の食文化や地域の産物についての学習</li> <li>・校内カフェ運営に向けての指導（接客練習、パン・焼き菓子の製造、メニューの開発など）</li> <li>・噛むことの大切さについての学習</li> <li>・児童生徒の投票によるリクエスト給食</li> <li>・生活習慣病の予防の観点から、菓子類やジュース類の糖分量の学習</li> </ul>
	<p>各研修会について</p>	<p>【保護者対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食試食会、非常用備蓄食品を用いた体験給食試食会、厨房見学会の実施</li> <li>・学校HPへの食育だより・献立表の掲示、給食だよりや保健だよりによる肥満・やせ傾向、食物アレルギー・疾患、偏食に関する情報提供</li> </ul> <p>【教職員対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任者校内研修における食育講話</li> <li>・摂食指導に関する校内研修会</li> <li>・アレルギーのある児童生徒への対応、エピペンの取り扱いについての研修会</li> <li>・厨房見学会</li> <li>・隣接する療育センターでの試食会実施</li> </ul>

<p>イ ベ ン ト 的 な も の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「卒業希望献立」「行事食」「ふるさと産品給食の日」「全国・外国の郷土料理給食」などの実施</li> <li>・季節や旬の料理の実施と情報発信</li> <li>・バイキング給食の実施</li> <li>・非常用備蓄食品を用いた体験給食</li> <li>・外注弁当（ペースト食）を購入しての摂食指導</li> <li>・県産品を活用した給食や地場産物に関するクイズ、展示</li> <li>・給食でのりんご食べ比べ</li> <li>・作業学習（高等部農耕班）で栽培、収穫した野菜の給食での活用と周知</li> <li>・全国学校給食週間給食</li> <li>・りんごの摘果～葉とり～収穫、収穫したりんごを使ったりんごジュース作り</li> <li>・種差少年自然の家の「せんべい焼き体験」出前講座</li> <li>・生徒による「校内カフェ<sup>はちこうし</sup>854」（月1回程度の頻度で実施、及び八高支祭などで実施）</li> <li>・ホテル等を活用した「テーブルマナー講座」</li> <li>・昨年度県学校給食会主催の学校給食レシピコンテストにおいて、生徒が受賞した献立による給食</li> </ul>
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭へ配布する献立表へ食材に関する情報や、食育に関する情報の掲載</li> <li>・毎月の「給食献立予定表」に、今月の重点目標等を掲載し配付</li> <li>・学校ホームページに献立とコメントを掲載</li> <li>・食堂入り口の一口メモの掲示（リクエストメニュー、給食に使用している珍しい食材、旬の食材、地場産物、メニューの由来など）</li> <li>・保健だよりによるバランスのとれた食事や栄養素、一日三食食べることの大切さ等の情報提供</li> <li>・オンライン（Zoom）を活用した授業（厨房と教室との遠隔授業）</li> <li>・食育に関する情報提供（[アップルウェーブ]ラジオでの非常用備蓄食品を使用した体験給食のねらいと効果についての紹介）</li> <li>・学校給食レシピコンテストへの応募</li> <li>・保健だよりや肥満指導だよりによるバランスのとれた食事等の情報提供</li> <li>・掲示（旬の食べ物、献立表、次回の献立写真、給食だより、残量調査結果等）</li> </ul>



## 5 青森県学校保健会

事業名 ①	健やか青森っ子プラン「健やか青森っ子生活習慣病防止対策」の実施
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	各地区学校保健会において実施
場 所	各地区学校保健会において実施
活動内容・参加者等	県教育委員会、郡市学校保健会及び学校保健関係団体等と連携し、幼児、児童生徒の心身の健康の保持増進と健康課題を解決するため、健康教育としての食育等を推進
事業名 ②	青森県学校保健・安全・給食研究大会
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	令和5年11月17日
場 所	野辺地町
活動内容・参加者等	学校における食に関する指導の取組発表
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	これまで同様、健康教育の中で総合的に取り組むとともに、学校保健関係団体が行う食育に関して積極的に支援する。

## 6 公益財団法人 青森県学校給食会

<p>第4次食育推進計画への位置付け</p>	<p>基本方向1-2</p>																								
<p>活動内容・参加者等</p>	<p>1 学校給食に関する食育活動の一環として、フードモデル（農水産物36種類、教材セット）を指導教材として作成し、学校、食育関係団体等に貸出を行っている。</p> <table border="1" data-bbox="539 477 1441 600"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>貸与施設数</th> <th>助成対象事業者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県産品フードモデルの貸出</td> <td>9ヶ所</td> <td>平川市学校給食センター等</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="539 633 1441 768"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>貸与施設数</th> <th>助成対象事業者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フードモデル（教材セット）の貸出</td> <td>20ヶ所</td> <td>八戸市立学校西地区給食センター等</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和5年12月末時点</p> <p>2 青森県PTA連合会と連携して、県内の郡市連合PTA及び単位PTA活動の「食育推進事業」に対し、経費の一部を助成する事業を行っている。</p> <table border="1" data-bbox="539 992 1441 1171"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>助成金額</th> <th>助成対象事業者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PTA食育活動支援事業</td> <td>23,766円</td> <td>深浦町立深浦小学校4学年PTA等2団体 (参加人員 46名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年1月現在</p> <p>3 地場産品を活用した食育を推進するとともに、学校給食に対する児童生徒の関心を高めるため、青森県産の食材を使った、家庭でも簡単に調理でき、学校給食でも提供できる、児童生徒のアイデアを活かした料理の青森県学校給食レシピコンテストを青森県教育委員会等と共催で実施し、食育推進の支援を行った。</p> <table border="1" data-bbox="547 1585 1441 1809"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和5年度実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募数</td> <td>643点(27校) (小学校110点、中学校529点、特別支援学校4点)</td> </tr> <tr> <td>表彰数</td> <td>最優秀賞 小学校の部・中学校の部・特別支援学校の部 各1点 優秀賞 小学校の部2点、特別支援学校の部1点、中学校の部4点</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	貸与施設数	助成対象事業者	県産品フードモデルの貸出	9ヶ所	平川市学校給食センター等	事業名	貸与施設数	助成対象事業者	フードモデル（教材セット）の貸出	20ヶ所	八戸市立学校西地区給食センター等	事業名	助成金額	助成対象事業者	PTA食育活動支援事業	23,766円	深浦町立深浦小学校4学年PTA等2団体 (参加人員 46名)	令和5年度実施状況		応募数	643点(27校) (小学校110点、中学校529点、特別支援学校4点)	表彰数	最優秀賞 小学校の部・中学校の部・特別支援学校の部 各1点 優秀賞 小学校の部2点、特別支援学校の部1点、中学校の部4点
事業名	貸与施設数	助成対象事業者																							
県産品フードモデルの貸出	9ヶ所	平川市学校給食センター等																							
事業名	貸与施設数	助成対象事業者																							
フードモデル（教材セット）の貸出	20ヶ所	八戸市立学校西地区給食センター等																							
事業名	助成金額	助成対象事業者																							
PTA食育活動支援事業	23,766円	深浦町立深浦小学校4学年PTA等2団体 (参加人員 46名)																							
令和5年度実施状況																									
応募数	643点(27校) (小学校110点、中学校529点、特別支援学校4点)																								
表彰数	最優秀賞 小学校の部・中学校の部・特別支援学校の部 各1点 優秀賞 小学校の部2点、特別支援学校の部1点、中学校の部4点																								
<p>取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)</p>	<p>青森県学校給食センター連絡協議会、青森県学校栄養士協議会及び青森県PTA連合会との連携を図り、食育の普及啓発を効果的に行うとともに、生産者団体等の協力を得て、地産地消の商品開発に努めている。</p>																								

## 7 青森県学校給食センター連絡協議会

第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、3-3
活動内容・参加者等	学校給食センターの運営を円滑に推進するために、食育及び食品ロス削減等に関する研修会等を開催し、食育推進事業に取り組んだ。
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	学校給食関係団体と連携して、食育推進事業を支援していきたい。

## 8 青森県養護教諭会

<p>第4次食育推進計画 への位置付</p>	<p>基本方向 1 - 2</p>
<p>活動内容・参加者等</p>	<p>会員各自が、勤務校において、家庭・地域・関係機関と連携を図りながら、食育に関する内容に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭や学校栄養職員と連携し、発達段階や子どもたちの実態に応じた学級・学年における「食」に関する指導の計画・実施。</li> <li>・学校保健委員会等で、「食」をテーマに取り上げ、健康な体づくりについて家庭や地域と考える場の設定と実施。</li> <li>・食物アレルギーについて、児童生徒の詳細な状況把握と職員への周知、職員を対象とした研修の実施。</li> <li>・参観日やPTA委員会等での「食」に関する講話や給食試食会、調理実習等の実施。</li> </ul>
<p>取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)</p>	<p>栄養教諭や学校栄養職員が配置されていない学校に勤務する会員が多く、校務分掌の中でも「食育」や「給食」に携わることが多い。そのため、養護教諭が自校の実態から、多岐にわたる健康課題を「食」と関連付けながら関係職員・関係機関と連携し、実態改善に向けた取組を行うことができる。</p> <p>昨年度まで中止・縮小されていた活動は、徐々に再開や通常どおりの活動に戻ってきている。</p>

## 9 青森県学校栄養士協議会

事業名 ①	ふるさと産品給食の日
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-2、3-2、3-3、配慮すべき事項2
期 日	6月、11月
場 所	各施設
活動内容・参加者等	・地域や県産の食材を使用した学校給食の献立を作成し、給食だよりや校内放送等で県産品や地域の産物を紹介し、児童・生徒や保護者に対して地産地消の啓発を図った。
事業名 ②	生活習慣病予防対策を含めた食に関する指導
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-2、2-1、配慮すべき事項1
期 日	通年
場 所	各施設
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設で対象となる児童・生徒に対して生活習慣病予防のためのテーマを設け、教科と関連づけた指導(家庭科での減塩みそ汁、保健体育での生活習慣病予防など)についてICTを活用して行った。</li> <li>・食に関する健康課題のある児童・生徒に対して個別的な相談指導を行うためのスキルの向上のために研修会を設けた。</li> </ul>
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	・地域で特産物や伝統野菜を栽培している農家の方と連携し、学校給食に活用したり、学校保健会での情報を基にしながら肥満の改善にむけた指導を行ったりしている。

## 10 特定非営利活動法人 青森県消費者協会

事業名 ①	地産地消推進事業・県産食材利用推進事業（4回）
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-1
期 日	令和5年4月～令和6年3月
場 所	青森市
活動内容・参加者等	<p>県産品に親しみ、利用拡大するための講演会及び料理講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月12日(月) 消費生活大学院「みんなで楽しく！料理教室」 講 師：料理研究家 大森頼子氏 会 場：県民プラザ 5F 調理実習室 参加者：9名</li>   <li>・7月15日(土) 親子で学ぼう！消費生活 「親子でつくる！夏のかんたん豚肉料理」 講 師：青森中央短期大学食物栄養学科 特任講師 池田友子氏 会 場：県民プラザ 5F 調理実習室 参加者：親子8組（保護者8名、児童10名） ※一般社団法人青森県養豚協会協力</li>   <li>・11月17日(金) 消費生活大学院「県産豚肉料理」 講 師：栄養士 今井裕子氏 会 場：県民プラザ 5F 調理実習室 参加者：20名 ※一般社団法人青森県養豚協会（共催）</li>   <li>・12月2日(土) 親子で学ぼう！消費生活 「親子で一緒に！クリスマス料理」 講 師：青森中央短期大学食物栄養学科 特任講師 池田友子氏 会 場：県民プラザ 5F 調理実習室 参加者：親子8組（保護者8名、児童10名） ※一般社団法人青森県養豚協会（共催）</li> </ul>

事業名②	食の安全・安心推進事業（４回）
第４次食育推進計画への位置付け	基本方向２－２
期 日	令和５年４月～令和６年３月
場 所	青森市
活動内容・参加者等	<p>食の安全・安心の推進について講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ９月１３日（水） 令和５年度 消費生活大学講座第５回＜県からの受託事業＞ 「非常時やもしもの時の食を考える」 講 師：青森中央短期大学 食物栄養学科 准教授 森山洋美氏 会 場：県民福祉プラザ４階 県民ホール 参加者：来場１０６名、YouTube参加１６名 合計１２２名 （一般・高齢者、消費生活大学講座受講申込者）</li> <li>・ ９月２１日（木） 移動消費生活講座 「知って得する食品表示」 講 師：青森県消費生活センター業務部 教育啓発課職員 会 場：北部地区農村環境改善センター 参加者：１３名</li> <li>・ １２月１４日（木） 移動消費生活講座 「知って得する食品表示」 講 師：青森県消費生活センター業務部 教育啓発課職員 会 場：大野市民センター 参加者：１３名</li> <li>・ １２月２２日（木） 移動消費生活講座 「知って得する食品表示」 講 師：青森県消費生活センター業務部 教育啓発課職員 会 場：沖館市民センター 参加者：１９名</li> </ul>
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	<p>料理教室では、青森県養豚協会からは食材の提供の協力いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費生活大学講座では、感染症拡大防止の観点から、講演後YouTubeで２週間程度の配信を行い、来場できない方でも視聴できるようにした。</li> <li>・ 移動消費生活講座では、動画や食品表示についてクイズ形式を取り入れ、身近な内容であることを分かりやすく解説した。</li> </ul>

## 1 1 青森県食生活改善推進員連絡協議会

事業名 ①	おやこの食育教室
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-1、3-2
期 日	令和5年8月～令和6年1月末まで
場 所	県内12ヶ所
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、事業を進める。</li> <li>・親子で調理体験する。</li> <li>・年長児から小学生と保護者。(内容が理解できる年令として、主に小学生を対象)</li> </ul>
事業名 ②	男性料理教室
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-5、2-3、3-2
期 日	令和5年8月～令和6年1月末まで
場 所	県内3ヶ所
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援に向けて、「生きていくための20品目」をテーマに、料理教室を実施。</li> <li>・成人男性。(男性の社会参加や仲間づくりのきっかけ提供)</li> </ul>
事業名 ③	生涯骨太クッキング(生活習慣病とロコモ予防)
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-5、2-3
期 日	令和5年9月～令和6年1月末まで
場 所	県内8ヶ所
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイル予防をテーマに、低栄養、ロコモ、認知症予防に取り組む。</li> <li>・調理体験が可能なら、感染防止対策をしながら実施。</li> <li>・地域住民、成人から高齢者。</li> </ul>
事業名 ④	やさしい在宅介護食教室
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-5
期 日	令和5年9月～令和6年1月末まで
場 所	県内3ヶ所
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老老介護の世帯増加にともない。家庭でできる介護食の学習。</li> <li>・在宅介護に必要な栄養や調理の知識、技術の習得を図る。</li> <li>・地域住民、食生活改善推進員。</li> </ul>



事業名 ⑤	全世代に広げよう健康寿命延伸プロジェクト
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-3、1-5、2-3
期 日	令和5年9月～令和6年1月末まで
場 所	若者世代6ヶ所、働き世代6ヶ所、 高齢世代(シニアカフェ)18ヶ所
活動内容・参加者等	・ヘルスサポーターを育成することで、地域とのつながりの強化や健康づくりを進める人の増加を図る。
事業名 ⑥	郷土・伝統料理教室
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-1、1-2、2-3、3-2
期 日	令和5年9月～令和6年1月末まで
場 所	県内3ヶ所
活動内容・参加者等	・伝統食材を始めとした地域の食材を生かした郷土料理や伝統料理、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食事の食べ方 ・作法について、次世代を含む地域住民に伝えることを目的とする。
事業名 ⑦	乳児健診等における“だし活+だす活”伝道事業
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-1
期 日	令和5年6月～12月末まで
場 所	全県実施 40市町村×3～4回 140回実施
活動内容・参加者等	・子どもの頃からの「だし活+だす活」の実践・定着を図るため、「だし活+だす活」を伝道する。 ・試食提供は中止。 ・できるだしサンプル1家族1つ配布。
事業名 ⑧	かんたん野菜レシピ普及事業
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-1、1-3
期 日	令和5年7月～令和6年1月末まで
場 所	全県実施 39回実施
活動内容・参加者等	・県民の野菜摂取量の増加を図るため、簡単にできる野菜料理の試食とレシピの提供及びアンケートの実施。 ・若い世代、働き盛り世代を中心。
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	・検温、手洗い消毒の徹底、マスク着用、会員自身の健康管理の徹底。 ・国や各市町村の方針に基づき、感染防止対策を徹底した上で、活動を進める。

## 1 2 青森県生活協同組合連合会

事業名 ①	JA 共済きずなの青い森プロジェクト 食育プログラム
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-5、3-3
期 日	①7月25日(火) ②10月3日(火)※次年度も継続
場 所	平内町弁慶地区(JA 共済きずなの青い森) 平内町山村開発センター
活動内容・参加者等	JA 共済連青森主催「きずなの青い森プロジェクト」(森林・木工・食育プログラム)の、食育プログラムを担当。県産農産物や食品ロスに関するビンゴクイズを実施し、理解を深めた。 ①小湊小学校5・6年生40名 ②農協・生協・森林組合の組合員・町民等40名。
事業名 ②	A 食品ロス&エシカルアンケート (環境パートナーシップセンター)
	B 食品の安全・安心に関する意識調査 (県食の安全・安心推進課)
第4次食育推進計画への位置付	A 基本方向1-5、配慮すべき事項1、2 B 基本方向3-3
期 日	11月~12月末 ※次年度も継続予定
場 所	各生協より対象組合員・職員への配布・回収。WEBアンケート
活動内容・参加者等	A 買い物行動と環境負荷について、自分の暮らしを見直して、変えていくきっかけとするアンケートと解説書の配布：参加約600人 B 食品の安全・安心に関する意識調査と合わせて、解説編の配布により啓発の機会とする。：参加約400人
事業名 ③	柴田学園大学との共同研究
第4次食育推進計画への位置付	基本方向2-1、3-3
活動内容・参加者等	(1)健康づくりの食事の「つくる気の出るメニュー」に関する調査(アンケート2回 各250人。完成冊子のデータ活用(店舗ちらし等)) (2)腎疾患の発症予防におけるリン酸の栄養生理学的研究事業 ①公開講座「短命県の生活から健康長寿の秘訣あり！」を共催し、「地域の健康づくり」をテーマに報告。63人参加(生協27人) 7月21日(金)弘前市ヒロロ 7月25日(火)青森市アウガ ②「加工食品の利用頻度に関するアンケート」687人

事業名 ④	ベジチェックによる野菜摂取推定量の測定
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1—5
活動内容・参加者等	<p>様々な活動の場面や、まちかど健康チェック等の健康度測定会、生協店舗での巡回測定会等で、ベジチェックによる測定会を実施し、野菜を食べようのアピールを実施。</p> <p>12月迄で7,288人</p>
事業名 ⑤	会員生協による食育の取り組み
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1—5、1—4
活動内容・参加者等	<p>1 食べて健康フェア（5/27～30）【県民生協&amp;青森保健生協】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健生協の管理栄養士が作った健康レシピをチラシに掲載</li> <li>・11店舗で保健生協112名による健康チェック活動</li> </ul> <p>329名参加</p> <p>2 食の安全、食と健康、産直等学習会【コープあおもり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 初夏のつどい（6～7月）・わいわいコープのつどい（10～11月）（県内80会場）：884人</li> <li>(2) 県出前トークだし活・だす活（7月7日・11人）</li> <li>(3) COOP&amp;コスモ直火焼きカレー・ルー・学習会（8月31日・30人）</li> <li>(4) 考えてみよう食の安全・安心（10月18日・16人）</li> <li>(5) 産直学習会（11月20日・17人）：74人</li> </ul> <p>3 エシカル消費キャンペーン【県民生協・コープあおもり】</p> <p>県内16店舗でコープのエシカル商品キャンペーン開催</p> <p>4 フードドライブ・フードバンク</p> <p>【県民生協・コープあおもり・青森保健生協・青森県生協連】</p> <p>5 弘前大学学生食堂（Horest）での取り組み【弘大生協】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト（県内17市町村）</li> <li>(2) 県内の特産品の消費拡大特別メニュー提供（12月）</li> <li>(3) 管理栄養士フェア</li> <li>(4) 夕食を食べようキャンペーン</li> </ul>

### 13 青森県生活研究グループ連絡協議会

事業名 ①	“津軽の味っこ” 伝承料理講習会（弘前地区連）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-2
期 日	令和5年8月3日（木）及び令和5年12月19日（火）
場 所	弘前市清水交流センター 調理実習室
活動内容・参加者等	<p>【内容】 郷土料理の調理実習</p> <p>8月 とうもろこしご飯、イカメンチ、なすのずんだ和え、ピーマンの佃煮 4品</p> <p>12月 いなりずし、高菜のかす汁、ふきと身欠きニシンの煮物、イカのごろ味噌和え、赤かぶの千枚漬け 5品</p> <p>【参加者】</p> <p>8月 弘前市民 19名、会員4名 中南地域県民局地域農林水産部2名 計25名</p> <p>12月 弘前市民 19名、会員5名 中南地域県民局地域農林水産部2名 計26名</p> <p>※平成24年から開催し、今年で12年目（計13回）</p>
取組の具体的手法や特徴的なこと（他団体との連携など）	・会員が講師となり、調理実習を通して郷土料理を伝承
事業名 ②	第37回 つがる市くらしの工夫展（つがる市連）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-2
期 日	令和6年2月1日（木） ※開催見込み
場 所	つがる市生涯学習交流センター 松の館
活動内容・参加者等	<p>【内容】</p> <p>・つがる市の農林水産物を使った料理や次世代に伝えたい料理の展示</p> <p>・女性団体による農産物や加工品の販売 ほか</p> <p>【参加者】</p> <p>生活改善グループや女性団体、一般市民 約200名</p>

事業名 ③	令和5年度「手づくりの味と技を楽しむ会」(鱈ヶ沢地区連)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-2
期 日	令和5年9月19日(火)
場 所	鱈ヶ沢町総合保健福祉センター 栄養指導室
活動内容・参加者等	【内容】 郷土料理と地産地消料理の実習を通しての、生産者と消費者の交流(ごままんまとながいも豆腐のあんかけの2品を実習) 【参加者】 会員13名、一般消費者2名、西北地域県民局地域農林水産部1名
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	地元産食材と会員が培った調理技術を生かした調理実習により、地産地消の推進と食文化の伝承を行っている。
事業名 ④	子育て家族を対象とした味噌づくり体験交流会(かみきた)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5、2-3、3-2
期 日	令和5年11月11日
場 所	木内々コミュニティセンター(おいらせ町)
活動内容・参加者等	【内容】味噌づくりによる多世代間の交流 【参加者】一般消費者14名(地域の高齢者、町内の親子等) 【講師】さつきグループ 2名
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	地元産の食材を活用し、地産地消の推進と食文化を伝承している。
事業名 ⑤	地元の食材を使った調理実習(かみきた)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-2
期 日	令和6年1月21日
場 所	淋代地区生涯学習センター(東北町)
活動内容・参加者等	【内 容】調理実習 鶏のさっぱり煮、小松菜と人参の白和え、ガニ汁等 【参加者】一般消費者13名 【講 師】東北町特産品販売促進協議会6名
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	地元産の食材を活用し、地産地消の推進と食文化を伝承している。

## 1 4 一般社団法人 青森県調理師会

事業名 ①	親子料理教室
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-1
期 日	令和5年7月23日(日)
場 所	アピオあおもり 1階 調理実習室
活動内容・参加者等	青森市内小中学生を対象とし、食を通じて親子のふれあいの場を創出し、料理の大切さを学んだ。 参加者：9組19名
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	(一社)全日本司厨士協会北部地方青森県本部のご協力の下、ル・グランクール料理長斎藤祐治氏を講師に招き、3品の洋食を作成した。

## 15 青森県農業協同組合中央会



事業名 ①	バケツ稲作り体験の実施
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-2
期 日	4月～10月
場 所	希望する県内全小学校
活動内容・参加者等	<p>1 目的 JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、バケツで稲を育てるという一連の農作業を通して、米や稲作文化だけではなく、広く農業全般についての学習機会をつくり、農業の持つ多面的機能への理解を深めてもらい、ごはん食を中心とした日本型食生活や国産農畜産物への関心を高めるきっかけとすること。</p> <p>2 対象 希望する県内全小学生</p> <p>3 活動内容 種もみとバケツを使って稲を育てるという、一連の栽培過程を体験する</p> <p>4 実績 令和5年度実施校：43校、 対象児童数：1,492人</p>
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	県内の各JAが準備や栽培指導を実施。

事業名 ②	小学5年生社会科副読本「いのちをはぐくむあおもりの農林水産業」の編集・発行
第4次食育推進計画への位置付	基本方向1-2
期 日	4月～3月
場 所	県内全小学校他（配布先）
活動内容・参加者等	<p>1 目的 青森県の基幹産業である一次産業、農業・林業・水産業の正しい姿を伝えることや環境保全・伝統文化継承など農林水産業の果たす役割を理解してもらい、「いのち」の大切さ、「食料」の重要性を学んでもらうこと。</p> <p>2 対象 県内全小学生（5年生全員）</p> <p>3 活動内容 社会科副読本（児童用・教師用）を作成・発行するため、県内小学校教諭を構成員とする編集委員会を設置し、現在使用されている教科書との整合性を図るとともに、改訂部分の修正や指導に関わる内容について見直す等の編集作業を行い、発行・配布している。</p> <p>4 実績 令和5年度版：児童用約1万部、教師用約1,000部を配布</p>
取組の具体的手法や特徴的なこと （他団体との連携など）	一般社団法人青森県水産振興連合会、青森県森林組合連合会、青森県土地改良事業団体連合会、青森県教育庁、青森県とJA青森中央会が、県内小学校教諭の協力を得て企画・編集。



## 16 全国農業協同組合連合会青森県本部

事業名 ①	令和5年度やさい作品コンクール
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、基本方向3-1
期 日	①募集期間：7月20日（木）～9月1日（日） ②審査会：11月6日（月） ③入賞展示：11月18日（土）～11月19日（日） ※表彰式は行わず、各小学校から入賞者へ授与いただく。
場 所	①募集期間：青森県農協会館 ②審査会：青森県農協会館 ③入賞展示：サンロード青森 2階 催事ホール
活動内容・参加者等	子供の頃から県産やさいに関する知識を深め、郷土で生産されたやさいに愛着を持ってもらうことを目的として、県内の小学生を対象に開催した。 応募点数：図画586点・習字（半紙）3,880点 習字（条幅）154点 合計4,620点 入賞点数：図画39点・習字（半紙）39点・習字（条幅）39点 合計117点
取組の具体的手法や特徴的なこと（他団体との連携など）	①青森市教育委員会の図画工作科部会・国語部会から推薦いただいた審査員に、審査を委嘱している。 ②継続開催することで本コンクールへの目的や意義が各校や家庭、地域に浸透していることや食生活に欠かすことのできない野菜、勤労の尊さを身近に感じられる作品が多かったとの講評をいただいている。
事業名 ②	食育絵本制作と保育園・幼稚園への配布
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、基本方向3-2、3-3
期 日	2月
場 所	県内保育園・幼稚園・図書館など
活動内容・参加者等	オリジナル食育絵本を制作し、県内の保育園・幼稚園へ配布することにより、子どもたちの「食」への関心を高め「県産品」「地産地消」に対する理解を深める。 県内保育園・幼稚園・図書館など約590施設へ配布。

事業名 ③	食育絵本読み聞かせ・おにぎり作りイベント
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、基本方向3-2、3-3
期 日	2月16日（金）予定
場 所	すぎのこ幼稚園
活動内容・参加者等	<p>1 絵本読み聞かせ・おにぎり作りイベント</p> <p>(1) 食育絵本読み聞かせ（全園児）</p> <p>(2) お米大使とのダンス・記念撮影（全園児）</p> <p>(3) おにぎり作り（年長園児）</p> <p>(4) 記念品贈呈</p> <p>2 イベント内容を情報誌等で発信</p> <p>3 令和6年度において県内各地でイベント開催予定</p>
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	イベントについては、青森県産米需要拡大推進本部（米本部）との連携による開催を予定している。
備 考	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>1 絵本概要</p> <p>(1) お腹を空かせた宇宙人「ポムくん」が青森に住む「りんちゃん」とその家族に出会い、一緒におにぎりを作って楽しい食事を通して、食の大切さに触れていく内容。</p> <p>(2) 作者 かとうまふみ さん 福井県生まれ。北海道在住。絵本作家・指人形作家。著書「ぬかどこすけ!」「みそこちゃん」など</p>

## 17 一般社団法人青森県りんご対策協議会

事業名 ①	青森りんごキッズ向けサイト（「青森りんご for キッズ」）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、配慮すべき事項1
期 日	通年
活動内容・参加者等	現代の生活様式（幼少期からITが身近にある環境）や授業形態の変化（小学校低学年からのタブレット端末活用やネット検索による学び）に対応するため、青森りんご食育総合サイト「青森りんご for キッズ」を開設。情報更新を随時行っている。  ※「社会科の学習内容が深まり広がる情報を得られるサイト」として当サイトが推奨され、今後小学校の社会科教材（資料集）で紹介掲載予定あり。
事業名 ②	学習用学習資料作製
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	通年
活動内容・参加者等	青森県産りんごの品種や栽培方法について記載した下敷きなどの教育資料を作製。青森県りんご果樹課主催の出前授業などを通じて県内の小学生等に提供。
事業名 ③	青森県庁食堂を活用したりんご腸活PR
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-3
期 日	令和6年1月16日(火)～2月9日(金)
場 所	青森県庁北棟8階 県庁食堂「花林檎」
活動内容・参加者等	森永ビヒダスヨーグルトとのタイアップ企画として、青森県産りんごとビヒダスヨーグルトを使用した腸活メニューを提供。会場内に設置した資料を活用し、りんごとスヨーグルトの喫食習慣によって期待される健康効果を広く県民にPRする。 ※初日はメディア取材を実施
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	その他、青森県以外での主な活動として、全国の管理栄養士養成課程のある大学等と連携し、栄養教諭や管理栄養士を目指す学生を対象とした「青森りんご次世代オピニオンリーダー育成事業」（りんごと学習冊子を提供し、授業やゼミ活動で活用）を実施しているほか、各地区青森りんごの会を通じて、全国の幼稚園・小学校等でりんごの食育活動を展開

## 18 公益財団法人 青森県りんご協会

事業名 ①	りんご食育授業
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	令和6年2月20日
場 所	大阪市立上福島小学校・大阪市立吉野小学校
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試食含む食育及び県産りんごPR</li> <li>・大果大阪青果(株)及び県大阪情報センター協力の下、実施予定</li> </ul>
事業名 ②	青森県りんご産業基幹青年養成事業
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	令和6年1月18日
場 所	北九州市立沼小学校
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手りんご生産者の育成事業における研修の一環として実施。内容は①に準じる</li> <li>・県福岡情報センター協力の下、実施</li> </ul>

## 19 青森県漁業協同組合連合会

<p>第4次食育推進計画 への位置付け</p>	<p>活動1 基本方向1-2 ----- 活動2 基本方向1-2、3-2 ----- 活動3 基本方向3-1、配慮すべき事項1 ----- 活動4 基本方向1-4、3-1、3-2</p>
<p>活動内容・参加者等</p>	<p>1 青森県ほたて流通振興協会との共催により、県内小学校等（3ヶ所）において出前授業を実施しました。また、県内の中学校が来会し、ホタテに関する特別授業を実施することで、県産ほたての長期的な食育推進を図りました。</p> <p>2 食育の重要性を認識し、地場産品を活用した食育推進及び学校給食に対する児童生徒の関心を高めるため、学校給食レシピコンテストに協賛し、魚食普及の推進を図りました。</p> <p>3 地元放送局と連携し、メディアを通じた県産ホタテのPR活動や、JF全漁連が運営する産直通販サイト「JFおさかなマルシェギョギョいち」にて、本県自慢の水産物を各種出品する等、本県水産物の消費拡大に努めました。</p> <p>4 漁協参加型イベントを定期開催（5月、11月）し、消費者との対面販売による浜自慢の水産物をPRしました。また、漁業者自ら漁獲した水産物を量販店において販売する「あおもりの肴フェア」を定期的で開催し、本県水産物の知名度向上や魚食推進に取り組みました。</p>
<p>取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)</p>	<p>定期開催したイベントについては、県内各漁協から出店希望者を募り、鮮魚介類をはじめとする水産加工物を販売。当日は700名を超える来場者がありました。毎年2回定期的に開催予定。</p>

## 20 青森県水産物卸売市場協会

事業名 ①	旬の魚の調理方法(郷土料理)の紹介
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-2
期 日	通年 毎月1回
場 所	収録場所は青森魚類(株)青森中央卸売市場
活動内容・参加者等	TVは「NHKあっぷるワイド」内にて市場情報コーナーがあり、毎月旬の魚の調理方法(郷土料理 ジャっぱ汁など)を放送。 ラジオは「RABラジオ朝わい!クリップ」にてTVと同様に旬の魚の調理方法を発信。
備 考	令和6年も実施予定。

## 2 1 公益社団法人 青森県物産振興協会

事業名 ①	「青森の食の魅力」を発信する青森県物産展等の開催
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-2
期 日	令和5年4月1日～
場 所	県内外の百貨店、量販店、当協会直営催事スペース（新青森駅内）、産業会館
活動内容・参加者等	本県が誇る安全・安心な農林水産物及びその加工品を県内外の消費者に広く紹介するために、物産催事や大農林水産祭を開催し、「青森の食の魅力」を発信した。

## 2 2 株式会社ユニバース

事業名 ①	親子オンライン料理教室
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、基本方針3-1
期 日	令和5年5月13日
場 所	東奥日報新町ビル「News」 キッチンスタジオより配信
活動内容・参加者等	・参加者は自宅のキッチンから親子で参加する料理教室。 スタジオの料理研究家カオリ先生の指導のもと青森県産食材を使ったレシピで料理作り配信。参加者は4種類のメニューを親子で調理しました。
事業名 ②	園児による手作りカレー&ナン料理教室
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-2、基本方針3-1
期 日	令和5年7月19日
場 所	根城こども園
活動内容・参加者等	・園児によるユニバースでの食材の購入やこども園で育てた野菜を収穫し、食材として使用しました。 ナンをこねて好きな形に成形し、カレーと一緒に食事。 デザートフルーツチェも作りました。 食後はカレーに関するクイズや歌で楽しみました。
事業名 ③	環境にやさしい「特別栽培めえにんじん」×ヴァンラーレ八戸コラボ商品の販売
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針3-1、基本方針3-3
期 日	令和5年7月17日
場 所	ユニバース（BH、PU除く）全店
活動内容・参加者等	・農薬及び化学肥料の使用を低減し、使用している肥料も店舗で発生した食品残渣を堆肥化してリサイクルした商品。 ・ヴァンラーレ八戸の選手、スタッフが三沢堀口店に来店し販売会を実施。
事業名 ④	嶽きみ収穫体験
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、基本方針3-1
期 日	令和5年8月27日
場 所	弘前市岩木山麓 野沢農園
活動内容・参加者等	・岩木山麓で栽培されている嶽きみを収穫する体験イベント。 参加者はご家族で協力しながら収穫し、その場で茹でたものや焼いたものを味わっていただきました。 ・収穫作業の大変さや、生産者のこだわりを直接聞く機会となりました。




事業名 ⑤	園児が作るカルピス教室
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-2、基本方針3-1
期 日	令和5年9月14日
場 所	すぎのこ保育園
活動内容・参加者等	・園児が自分で作って飲むおいしさ、楽しさを体験してもらうカルピス教室を実施。 最後は片付けをするまでが流れとなります。
事業名 ⑥	「第12回 ご当地！絶品うまいもん甲子園」 弘前実業高校が特別賞を受賞！
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-2、基本方針3-2
期 日	令和5年11月26日
場 所	住友不動産西大崎ガーデンタワー
活動内容・参加者等	・地元の食材を使用したアイデアメニューの調理とプレゼンテーションを競う料理コンテスト。 弘前実業高校が北海道・東北エリア大会を勝ち進み、決勝大会で特別賞を受賞しました。 受賞したのは、郷土料理のたらたまから発想を得た、棒タラを使用の「津軽☆めっ鱈キッシュ」で現在、商品化を検討中です。

## 2 3 株式会社マエダ

事業名 ①	地場商品コーナーの展開
第4次食育推進計画への位置付	基本方向3-1
期 日	通年
場 所	マエダストア全店
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地産地消」を目的に地場野菜や加工品を販売。</li> <li>・全店に販売コーナーを常設し、店舗近くの農家さん等から仕入販売</li> </ul>
事業名 ②	インターンシップにおける寿司作り体験
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	令和5年8月～令和6年2月 月に1～2回程度
場 所	マエダ青森本部
活動内容・参加者等	弊社のインターンシップに参加の大学生を対象に、食の大切さと弊社の仕事内容を知ってもらうため、実際に店舗で販売している寿司の製造体験を実施。

## 2 4 紅屋商事株式会社

事業名 ①	紅屋の食育
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-4、2-1、3-1、3-2、3-3、 配慮すべき事項2
期 日	年10回（8月、12月を除く月一回開催）
場 所	カブセンター、ベニーマート 計11店舗
活動内容・参加者等	<p>月毎に食育テーマを設定し、情報提供、バランスの良い献立提案、試食提供を実施。毎回、減塩（塩分量見本掲示）・野菜摂取（生・加熱野菜で量目見本展示）の推奨を行い、県産食材、県内加工品も献立に活用し、店内・広告等で紹介。</p> 
取組の具体的な手法や特徴的なこと （他団体との連携など）	管理栄養士監修の献立を提案。各店舗で独自のイベント実施。体験型イベント（野菜350g重量当て、箸で豆つかみ他）やテーマに沿ったアンケート、クイズなどで食育取り組みへの一歩を提案。食品メーカーより減塩しょう油の試供品の協力有り。
備 考	令和6年度も実施予定。
事業名 ②	食育通信 ベニーズキッチン
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-4、2-1、3-1、3-2、3-3、 配慮すべき事項2
期 日	年6回発行（2ヵ月に一回発行）
場 所	カブセンター、ベニーマート 計11店舗
活動内容・参加者等	事業名①の取組み内容を店内配布ポイントカタログ「ベニークラブ」に掲載。食育情報シートや活動写真を掲載。
備 考	令和6年度も実施予定。
事業名 ③	こども食育新聞
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-4、3-1、3-2、3-3、 配慮すべき事項2
期 日	年12回
場 所	カブセンター、ベニーマート 計11店舗、食育WEBサイト
活動内容・参加者等	月毎に食育テーマを選定し、月一回発行。店内配布、食育WEBサイトで配信。
取組の具体的な手法や特徴的なこと （他団体との連携など）	子供でも読みやすいように漢字にはルビを振っている。簡単なクイズやゲーム、調理方法などを掲載。
備 考	令和6年度も実施予定。

事業名 ④	だし活推進
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向2-1、3-1
期 日	年10回
場 所	カブセンター、ベニーマート 計11店舗
活動内容・参加者等	<p>できるだしを使用したレシピ作成、試食提供を実施。巡店開催の他、10月21日は、事業名①の活動内で11店舗同時実施。できるだしで郷土料理（せんべい汁）の提案。</p>  
取組の具体的な手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	青森県農林水産部、県内メーカー他、だし活協議会の協力のもと実施。
備 考	令和6年度も実施予定。
事業名 ⑤	食育WEBサイト
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-4、2-1、3-1、3-2、3-3、 配慮すべき事項1、2
期 日	通年
場 所	<a href="https://www.beny.co.jp/healthylife/">https://www.beny.co.jp/healthylife/</a>
活動内容・参加者等	事業名①③④の他、レシピや旬のおすすめ商品等を提案する食育WEBサイト。
取組の具体的な手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	毎月の食育活動やだし活の実施報告記事や季節に合わせた情報をタイムリーに発信。各SNS、YouTubeとも連動している。
備 考	令和6年度も実施予定。

事業名 ⑥	野菜摂取推進 料理教室
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、2-2、3-1、3-2
期 日	令和5年8月19日
場 所	弘前市総合学習センター
活動内容・参加者等	<p>「めざせ！野菜1日350g！夏野菜簡単クッキング」 野菜摂取の必要性の講演と夏野菜レシピ10品の料理教室の実施。</p> <p>参加者：20名 20～80代と幅広い年代が参加。</p> 
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	野菜摂取量の現状説明、目標摂取量の目安（手計り）などで野菜摂取への意識付け。調理の後、一緒に試食することで新たなコミュニティの創出。参加者全員より次回も参加したいとの評価。
備 考	令和6年度は、青森、弘前、八戸3地区で開催予定。
事業名 ⑦	青森県主催 オンライン講座「あおもり親子農楽校」
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、基本方針3-1、配慮すべき事項1
期 日	令和5年11月19日
活動内容・参加者等	産地から食卓に届けられる、安全安心・美味しい「食のリレー」の紹介。スーパーマーケットに商品が並ぶまでの流れや親子で簡単に調理できるレシピの実演。
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	青森県主催オンライン食育講座の第3回に出演。物流・納品・加工・陳列・販売方法（売場展開、POP表示など）を社会科見学風に紹介。簡単レシピは、「世界一簡単なマカロニグラタン」を実演。



## 25 公益社団法人青森県看護協会

事業名 ①	健康祭り等への参画 (東青支部による支部活動)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5
期 日	令和5年9月3日(日)
場 所	県民福祉プラザ
活動内容・参加者等	「あおもりシニアフェスティバル」に参加し、来場した一般住民を対象に、血圧測定、健康相談に従事し、生活習慣病予防等の食育に係る活動を実施した。
事業名 ②	健康祭り等への参画 (上十三支部による支部活動)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5
期 日	令和5年9月24日(日)
場 所	三沢市総合社会福祉センター
活動内容・参加者等	「三沢市社協祭り」に参加し、来場した一般住民を対象に、血圧測定、脈波・骨密度測定、健康相談に従事し、生活習慣病予防等の食育に係る活動を実施した。
事業名 ③	健康祭り等への参画 (下北支部による支部活動)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5
期 日	令和5年12月2日(土)
場 所	大間町総合開発センター
活動内容・参加者等	「大間産業祭」に参加し、来場した一般住民を対象に、手洗いチェッカーによる手洗い指導、血圧測定に従事し、生活習慣病予防等の食育に係る活動を実施した。
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	看護協会の会員である看護職が、他団体と連携し、健康祭り等の地域のイベントに参加し、一般住民への健康づくりに係る知識・技術の提供に継続して取り組んできている。
備 考	当協会事業として、看護職を対象に、小児のアレルギー(食物アレルギーの原因と予防)等を内容とする「アレルギーを抱える子供と家族のケア」研修を実施した。

## 26 公益社団法人青森県栄養士会

事業名 ①	「無料栄養相談」あおもり栄養ケア・ステーション 1
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、配慮すべき事項1
期 日	令和5年度
場 所	栄養士会事務所
活動内容・参加者等	県民を対象に、無料で栄養相談や食育相談を実施 HP 随時
事業名 ②	「サンロード青森健康促進デー」あおもり栄養ケア・ステーション 2
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、3-1
期 日	令和5年9月2日(土)～3日(日)
場 所	サンロード青森
活動内容・参加者等	減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、減塩チラシ 食育エプロンの展示、子ども向けショー ヘルシーダイアリーの配布、栄養相談 参加者 70名
事業名 ③	減塩プロジェクト事業 1 (弘前健康まつり)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、3-1
期 日	令和5年7月9日
場 所	ヒロロ4階 市民文化交流館ホール
活動内容・参加者等	「栄養相談コーナー」 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、減塩チラシ 野菜の摂り方について、ジュースの中に入っている砂糖の量
事業名 ④	減塩プロジェクト事業 2 (八戸市健康パネル展)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、3-1
期 日	令和5年10月21日(土)～23日(月)
場 所	八戸市ポータブルミュージアムはっち
活動内容・参加者等	減塩タペストリー、減塩パンフレット、減塩レシピ 新型コロナウイルス感染予防の栄養のリーフレットの展示をした。 参加者 5,429名



事業名 ⑤	減塩プロジェクト事業 3 (十和田市コミュニティまつり)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、3-1
期 日	令和5年10月22日
場 所	十和田市
活動内容・参加者等	「栄養相談コーナー」 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、参加者98名
事業名 ⑥	減塩プロジェクト事業 4 (東北町健康福祉まつり)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、3-1
期 日	令和5年11月5日
場 所	東北町
活動内容・参加者等	「栄養相談コーナー」 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、参加者410名
事業名 ⑦	減塩プロジェクト事業 5 (あおもり健康寿命延伸フェア2023)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、3-1
期 日	令和5年11月11日
場 所	サンロード青森 サンホール
活動内容・参加者等	減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示
事業名 ⑧	減塩プロジェクト事業 6 (健康づくり市民のつどい)
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-1、1-5、2-1、3-1
期 日	令和5年11月18日
場 所	スポカルイン黒石
活動内容・参加者等	「栄養相談コーナー」(来場者280名) 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、栄養クイズ250枚 食品の塩分量モデル展示、各疾患のパンフレット 栄養相談30名
事業名 ⑨	「アスリートプログラム」あおもり栄養ケア・ステーション3
第4次食育推進計画への位置付け	基本方針1-2、1-5
期 日	令和5年度
場 所	マエダアリーナ(青森市)
活動内容・参加者等	中・高校・一般のスポーツ選手を対象に食事栄養診断と栄養相談種目は自転車、バドミントン、ボート、スキー、スピードスケート等 計30回
取組の具体的手法や特徴的なこと(他団体との連携など)	青森県スポーツ科学センターとの委託事業

## 27 社会福祉法人青森県社会福祉協議会

事業名 ①	こども宅食おすそわけ便
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1 基本方針3-3
期 日	奇数月：青森・三沢、偶数月：八戸、五所川原
場 所	県内4地域 青森・八戸・三沢・五所川原
活動内容・参加者等	社会的に孤立しがちな子育て家庭を支援するため、「こども宅食」を開始。県社協が指定する県内各地域の「こども宅食」は「こども宅食おすそわけ便」と名乗って活動している。
取組の具体的な手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	定期的に食品等を届け、社会的に孤立しがちな子育て家庭とつながりをつくることにより、必要な支援に結びつけ、小さな変化にも気づきやすい関係性を築くことを目的としている。
事業名 ②	あおもり「みんなの食堂」と農林水産業とのマッチング
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-3
期 日	通年
活動内容・参加者等	食育推進の一環として、誰かと食事を共にする「共食(きょうしょく)」の場である「みんなの食堂」を支援するため、農林水産業とのネットワークを立ち上げ、農林水産業で発生する未利用農林水産物(規格外品、余剰品)等の食材と「みんなの食堂」をマッチングする取り組みを行っている。(県委託事業)
取組の具体的な手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	食材を提供したい団体等とみんなの食堂等をネットワークホームページにて情報提供し、両者のマッチングを行うことで、「みんなの食堂」の支援・活動に有益な情報が提供できる。

## 28 一般社団法人青森県保育連合会

事業名 ①	令和5年度給食・食育研修会
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2
期 日	令和5年11月28日(火)
場 所	ホテル青森
活動内容・参加者等	<p>県内保育所等の給食関係者の資質及び専門性の向上を目指し研修会を開催</p> <p>1 「適切な保育を考える（給食編）          食べることを楽しむ たべられないこの食べられない理由」          講師：日本会食恐怖症克服支援協会          理事長 山口健太 氏</p> <p>2 「食べる」が目指すこと          特別支援学校の事例から給食指導を考える          講師：弘前大学教育学部附属特別支援学校          栄養教諭 西谷倫子 氏</p> <p>【参加者】会員施設、給食関係者及び保育関係者 177 名</p>
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	<p>子どもの「食」の視点から豊かな人間性を育み、子どもに与える栄養の意義や発育期の栄養の特性を総合的に理解する。</p>

## 29 学校法人青森田中学園 青森中央短期大学

事業名 ①	青森中央短期大学 食育講座・出前講座
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、1-5、3-2
期 日	令和5年6月～令和6年1月
場 所	県内の保育施設、公共機関、教育機関等
活動内容・参加者等	<p>本学食物栄養学科教員の専門性を活かしたテーマを設定し、依頼元の対象者、目的、課題やニーズに応え、食事や栄養に関わる多様な内容の講義を実施した。</p> <p>【食育講座】 こども園の園児を対象に「消化のしくみ」の講義を1件、保育教諭を対象に「園児給食」の講義を1件行った。また、栄養バランスのとれた食事に関する講義を2件、魚食に関する講座を1件実施した。</p> <p>【食に関する出前講座】 高校生を対象に「成長期に必要な栄養」「健康的な食事」「栄養士・管理栄養士の仕事」等の講義を5件実施した。</p>
事業名 ②	青森中央短期大学公開講座「身近なもので もしもの時のクッキング」
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、1-5、配慮すべき事項2
期 日	令和5年7月22日（土）
場 所	青森中央短期大学
活動内容・参加者等	親子を対象に前年度実施した講座の第2弾として、今年度は中学生・高校生を対象に、災害などの非常時でも身近な材料で簡単に作ることでできる料理教室を実施した。
事業名 ③	青森中央短期大学公開講座「インドネシア料理講座」
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-2、1-5、配慮すべき事項2
期 日	令和5年7月29日（土）・10月7日（土）
場 所	青森中央短期大学
活動内容・参加者等	JICA 青年海外協力隊OGを講師に迎え、親子、学生を対象にインドネシア料理講座を各1回実施した。本場の食材を用いて本格的な料理と味を学び、他国の食文化を通じて国際理解を深める機会となった。

事業名 ④	産官学連携・地産地消弁当の共同開発
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-4、1-5、3-1、3-2、配慮すべき事項2
期 日	令和5年9月
場 所	青森県内
活動内容・参加者等	青森県産品を使用した郷土料理を盛り込み、減塩の工夫を施した地産地消弁当「青森中央短期大学監修 中短のちゅっぴいおすすめ第二弾『食べてぼうけん青森一周詰め合わせ弁当』」を、本学食物栄養学科の学生が株式会社イトーヨーカ堂、青森県農林水産部と連携して開発・販売した。
事業名 ⑤	高齢者施設における手作りおやつを提供
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-4、1-5、2-3
期 日	令和5年9月11日(月)・12日(火)
場 所	社会福祉法人中央福祉会特別養護老人ホーム三思園
活動内容・参加者等	咀嚼や嚥下の力が低下した高齢者が「口から食べる喜び」を感じられるように、食べやすく栄養価の高い手作りおやつを、食物栄養学科の学生が考案・調理し、高齢者施設入所者に提供した。
事業名 ⑥	CHU-TAN 食育プロジェクトおむすび「べこもちで土偶を作ろう」
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-2、1-4、1-5、3-2
期 日	令和5年9月16日(土)・17日(日)
場 所	青森中央短期大学
活動内容・参加者等	地域の食文化や歴史への興味を高めることを目的に、幼児・児童とその保護者を対象とした食育イベント「べこもちの生地を使って、板状土偶をつくってみよう」を実施した。参加者は延べ約85名。
事業名 ⑦	あおもり食育サポーター「食育ワーキング」
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-2、1-3、1-5、2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3
期 日	令和5年10月27日(金)
場 所	アピオあおもり 調理実習室
活動内容・参加者等	「あおもり食育サポーター」の資質向上と活動の活性化を図るための講義・ワークショップ・調理実習。あおもり食育サポーター13名参加。

事業名 ⑧	保育施設での親子を対象とした調理教室
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-2、1-5、2-3
期 日	令和6年2月18日(土)
場 所	認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園
活動内容・参加者等	保育施設に通う園児とその保護者を対象に、親子が一緒に楽しみながら調理することで、食材や料理、食べることへの興味を喚起するとともに、異なる世代間で食の楽しみを共有できる食育調理教室を実施した。
事業名 ⑨	「さかな丸ごと食育」学習会
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-1、1-2、3-1、3-2、3-3、 配慮すべき事項2
期 日	令和5年7月9日(日)、8月27日(日)、11月19日(日)、12月17日(日)、令和6年1月12日(金)全5回
場 所	青森中央短期大学
活動内容・参加者等	園児とその保護者、学生を対象とした学習会を、青森県水産振興課の「若者世代に向けた魚食普及の取組」と連携して実施した。県内各漁業組合から漁業者を招き、魚介類の扱い方や生産者ならではの食べ方についてレクチャーを受けた。また、「さかな丸ごと食育」養成講師である本学教員による講義では、さかなの生態、水産資源を取り巻く環境、生産や流通、消費などについて学んだ。
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	青森中央短期大学は、栄養学や健康教育を専門とする食物栄養学科を擁し、栄養に関わる専門職業人の育成・教育や研究活動を行っている。特に、青森県の豊かな食材と食文化を全ての世代間で楽しみながら継承するための食育活動展開事業や、地域の食育活動実践者の育成・支援事業など、青森県民の健康寿命の延伸と健康行動の変容を目指して、さまざまな世代・職種を対象とした独自の取組を実施している。また、青森県委託事業「あおもり食育サポーター事務局」や、「あおもり食育検定委員会事務局」として、地域の市民や諸機関と連携、協力しながら青森県の食育活性化事業を実施、支援している。

### 30 株式会社東奥日報社

事業名①	「うまい森 青いもり」フェア
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-2
期 日	通年
場 所	青森市、弘前市、八戸市、および東奥日報紙上
活動内容・参加者等	2016年に始まり8年目の県産品応援イベント。県内の市町村が誇る「魅力的な食文化」について、新聞紙面で毎週のように紹介する連載記事のほか、イベント実施に合わせた大小さまざまな記事を掲載している。生産者や生産団体と消費者をつなぐ物販イベントは、八戸市（館鼻岸壁朝市会場、9月）、弘前市（さくら野百貨店、11月）、青森市（アスパム、11月）で開催した。サブテーマは「食べて健康、買って応援 “本気” 出そう短命県脱却」。
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	県内の地域活性化アイドルグループによる「県内食材レポート」を通年で紙面に掲載しているほか、SNSでも発信してもらっている。また、物販イベントでは県内大学と連携して健康と食に関するクイズコーナーを設けるなど、若い世代への呼び掛けにも力を入れている。

### 3 1 青森県土地改良事業団体連合会

事業名 ①	令和5年度食育活動実践プロジェクト実施業務（魚食を学ぶ会）
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5
期 日	令和5年9月4日（月）
場 所	アピオあおもり 1階調理実習室
活動内容・参加者等	<p>会員より、1次産業である漁業について学びたいと要望があったことから、魚食文化にふれる食育活動を行った。</p> <p>普段魚に触れることが少なくなっている中での調理体験は、とても貴重な体験ができ、勉強になりました。</p> <p>【参加者】会員</p>
事業名 ②	料理レシピコンテスト及び審査会、表彰式
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5
期 日	令和5年9月1日～9月29日
場 所	青森県土地改良事業団体連合会 2階役員会議室
活動内容・参加者等	<p>上記期間において募集した作品を事務局が事前に選定した、7作品の料理を試食し、上位3作品を決定し、女性の会が主催する「ビジョンアップセミナー」において表彰式を実施した。</p> <p>応募総数17作品（応募者）会員、市町村</p>
取組の具体的手法や特徴的なこと（他団体との連携など）	<p>事業名① 魚食を学ぶ会</p> <p>県農林水産部水産局水産振興課に依頼し、魚食について学んだ。</p> <p>また、あおもり食命人に依頼し、海産物を使用した、調理体験を実施した。</p>



### 3 2 あおもり食育検定委員会

事業名 ①	2023年度あおもり食育検定
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5
期 日	令和5年11月12(日)
場 所	<p>【主会場】 青森中央短期大学(青森市)、弘前学院大学(弘前市)、八戸学院大学(八戸市)、むつ下北観光物産館(むつ市)</p> <p>【団体会場】 青森県立青森高等学校(青森市) 青森県立青森南高等学校(青森市)、青森県立弘前南高等学校(弘前市)、青森県立弘前実業高等学校(弘前市)、青森県立木造高等学校(つがる市)、八戸学院大学光星高等学校(八戸市)、弘果 弘前中央青果株式会社(弘前市)</p>
活動内容・参加者等	<p>内 容：県内4会場(主会場)及び7団体会場(準会場)において、あおもり食育検定を実施した。</p> <p>参加者：申込237名、受検225名、合格168名</p>
事業名 ②	2023年度あおもり食育検定オンデマンド解説講座
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-5
期 日	令和5年10月2日(月)～11月12日(日)
場 所	オンデマンド配信
活動内容・参加者等	<p>内 容：検定受検申込者を限定に、あおもり食育検定公式テキスト2023に基づいた、青森県の食育や関連知識の習得を目指す講座を実施した。</p> <p>参加者：計611名</p>
取組の具体的な手法や特徴的なこと(他団体との連携など)	<p>受検申込者には、検定テキストを無料で配布している。更に、検定合格者への認定証発行及び「あおもり食育サポーター」への登録資格を付与している。</p>

### 3 3 国立大学法人弘前大学 農学生命科学部

事業名 ①	公開講座「リンゴを科学する」
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向3-1、3-3、配慮すべき事項2
期 日	令和5年12月9日(土)
場 所	板柳町 多目的ホール「あぷる」 (北津軽分板柳町大字灰沼字岩井61)
活動内容・参加者等	<p>本学教員及び外部講師により次の講演を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 果樹における新規就農者確保の取り組み 弘前大学 成田 拓未 准教授</li> <li>2 リンゴ腐らん病を可視化して診断する技術の開発 北海道情報大学 栗原 純一 准教授</li> <li>3 気候変動と青森リンゴのこれから 弘前大学 伊藤 大雄 教授</li> <li>4 赤肉品種「美紅」 弘前大学 林田 大志 助教</li> </ol>
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	弘前市、平川市及び藤崎町の後援を受け、板柳町との共催。
備 考	来年度も実施予定。

### 3 4 青森県旅館ホテル生活衛生同業組合

事業名 ①	夏期衛生講習会
第4次食育推進計画への位置付け	基本方向1-4、2-2
期 日	令和5年8月21日(月) 14:00~15:30
場 所	アートホテル青森 3階「陸奥の間」
活動内容・参加者等	<p>夏場の食中毒対策として守るべき注意事項と「HACCPによる衛生管理」、「レジオネラ症対策」の重要性について研修。</p> <p>第1部 「食品衛生管理について」          第2部 「環境衛生管理について」</p> <p>講師 第1部 青森市保健所 獣医師 大久保 唯子 氏          第2部 青森市保健所 主査 渡邊 道代 氏</p> <p>参加者 16社・団体 21名</p>
取組の具体的手法や特徴的なこと (他団体との連携など)	青森市旅館ホテル協同組合・青森県調理師会との共催。